

Ⅲ 救 急 の 概 要

1. 救急体制

(1) 救急業務実施体制

県内の救急体制は、昭和38年の消防法改正により救急業務が消防の任務として法制化されて以来、逐次整備充実されており、令和3年4月1日現在、県内全市町村において救急業務を実施している。

救急業務実施市町村（義務実施）

各年4月1日現在

	市 町 村 数	人 口 (人)	人口カバー率 (%)
昭和40年	4	326,530	38.5
昭和50年	16	786,596	73.9
令和3年	39	1,318,934	100.0

(2) 応援協定による救急業務

近隣市町村等による相互応援協定、西名阪自動車道消防相互応援協定を締結して、救急業務を実施している。

西名阪自動車道における救急体制

令和3年4月1日現在

	柏 原 IC	香 芝 IC	法 隆 寺 IC	郡 山 IC	天 理 料 金 所	天 理 IC
上り車線	奈良県広域消防組合					
下り車線	柏原羽曳野藤井寺 消防組合	奈良県広域消防組合				

(3) 救急隊員と装備

救急業務は、人命救助という重要な業務であることから、現在は、救急隊員の応急処置の内容が明確化され、また、救急隊員に対する教育講習も義務づけられたことにより、救急業務の内容が質的に向上している。

令和3年4月1日現在、救急隊員数は1,192名で、救急自動車数は82台である。

2. 救急医療体制

(1) 救急告示病院

救急患者を受け入れるべき救急告示の病院及び診療所数は、令和3年4月1日現在、41機関である。

医療機関数

令和3年4月1日現在

	病 院			診 療 所	計	前年同期
	国 公 立	公 的	私 的			
救 急 告 示	11	3	27	0	41	41
そ の 他	30	18	32	1,063	1,143	1,154

(2) 救急医療体制の整備

休日・夜間における救急需要の増大に対処するため、県では、1次救急医療については、市町村を中心に地域医師会の協力を得て実施し、2次救急医療については、市町村が病院群輪番制により体制を確保しているほか、救急告示病院が救急患者を受け入れている。また、3次救急医療については、県立医科大学附属病院に高度救命救急センター、奈良県総合医療センター、近畿大学奈良病院に救命救急センターが設置され、救急業務の円滑、適正な遂行を確保するため、体系的な救急医療体制の確立を図っている。

3. 救急業務実施状況

(1) 救急出場件数と搬送人員

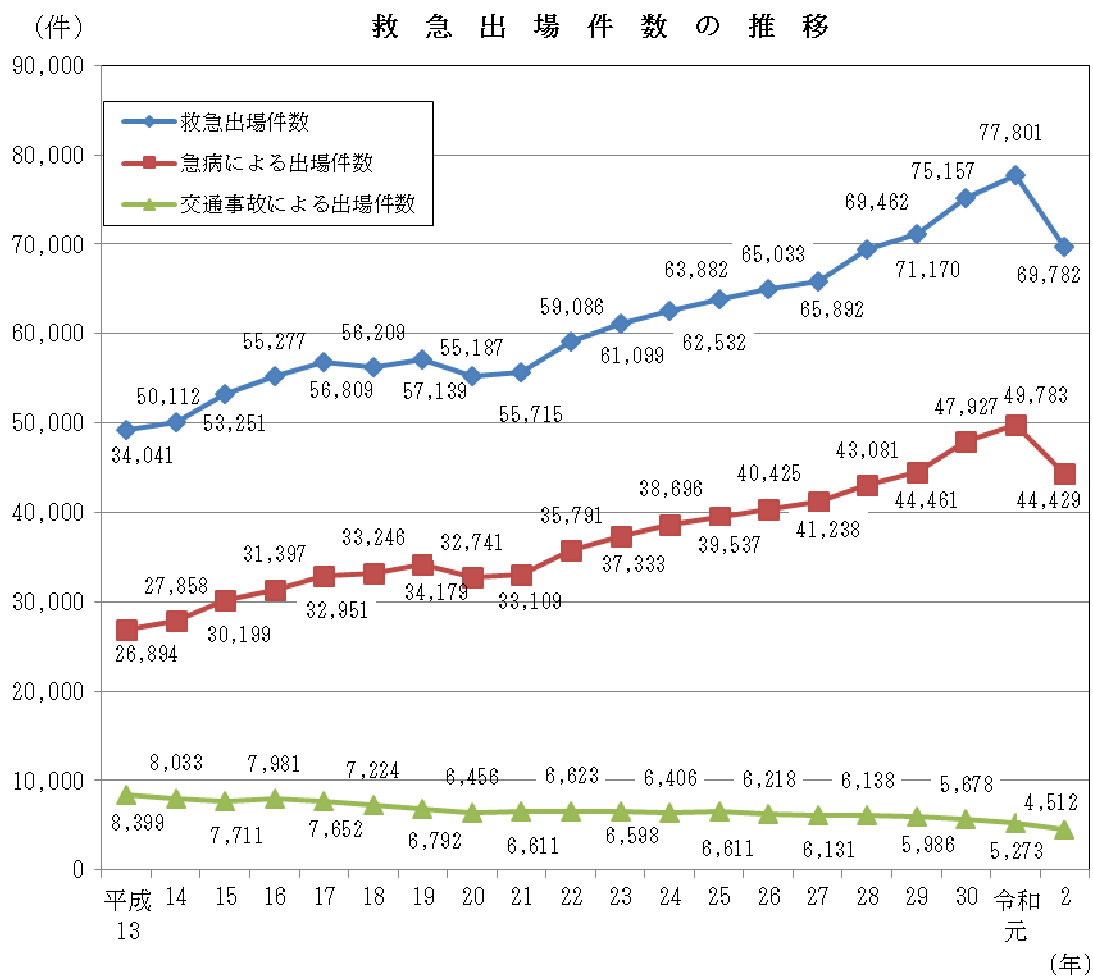
令和2年中（1月～12月）における県内の救急業務実施状況は、出場件数69,782件、搬送人員63,975人で、前年に比べ出場件数で8,019件（10.3%）減少、搬送人員で7,253人（10.2%）減少した。

また、人口1万人当たりの出場件数は529件で、1日平均では191件、約7.5分に1回の割合で救急隊が出場していることとなる。

救急出場件数及び搬送人員

（単位：件、人、%）

	救 急 出 場 件 数						搬 送 人 員
		うち交通事故によるもの		うち急病によるもの		人口1万人 当 たり 出 場 件 数	
		件数	構成比	件数	構成比		
平成28年	69,462	6,138	8.8	43,081	62.0	472	64,375
平成29年	71,170	5,986	8.4	44,461	62.5	489	65,772
平成30年	75,157	5,678	7.6	47,927	63.8	563	69,504
令和元年	77,801	5,273	6.8	49,783	64.0	587	71,228
令和2年	69,782	4,512	6.5	44,429	63.7	529	63,975



(2) 事故種別出場件数及び搬送人員

令和2年中（1月～12月）の事故種別出場件数は、急病が63.7%と最も多く、続いて一般負傷、交通事故の順となっている。

また、事故種別搬送人員も急病が64.1%と最も多く、続いて一般負傷、交通事故の順となっている。

事故種別救急出場件数及び搬送人員（令和2年中）

（単位：件、人、%）

	火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自行損傷	急病	その他	計
出場件数	278	4	29	4,512	705	296	11,870	203	658	44,429	6,798	69,782
構成比	0.4	0.0	0.0	6.5	1.0	0.4	17.0	0.3	0.9	63.7	9.7	100.0
搬送人員	51	3	21	4,311	684	294	11,177	155	473	41,009	5,797	63,975
構成比	0.1	0.0	0.0	6.7	1.1	0.5	17.5	0.2	0.7	64.1	9.1	100.0

(3) 年齢別・傷病程度別搬送人員

令和2年中（1月～12月）の年齢別搬送人員は、老人が40,569人（63.4%）で最も多く、次いで成人18,445人（28.8%）となっており、新生児は136人（0.2%）となっている。

一方、搬送人員を傷病程度別にみると、死亡703人（1.1%）、重症4,292人（6.7%）、中等症28,436人（44.4%）、軽症30,532人（47.7%）、その他12人（0.02%）となっている。

年齢区分別、事故種別及び傷病程度別搬送人員（令和2年中）

（単位：人）

	合計	事故種別					傷病程度別				
		火災	交通事故	一般負傷	急病	その他	死亡	重症	中等症	軽症	その他
乳幼児等	2,722	2	114	970	1,443	193	5	49	584	2,084	0
少年	2,239	0	366	350	1,222	301	3	25	468	1,743	0
成人	18,445	21	2,475	1,788	11,624	2,537	87	883	6,177	11,294	4
老人	40,569	28	1,356	8,069	26,720	4,396	608	3,335	21,207	15,411	8
合計	63,975	51	4,311	11,177	41,009	7,427	703	4,292	28,436	30,532	12

（注）乳幼児等=満7歳未満、少年=満7歳以上18歳未満、成人=満18歳以上65歳未満、老人=満65歳以上。

（4）医療機関別搬送人員

令和2年中（1月～12月）の搬送人員のうち救急告示医療機関へ搬送された救急患者は62,131人（97.1%）で、救急告示以外の医療機関へ搬送された者は、1,837人（2.9%）となっている。

また、医療機関への搬送時間は、30分以上60分未満が42,909人（67.1%）で最も多く、30分までに搬送された者は、全体の22.8%（前年は23.8%）となっている。

医療機関別搬送人員

（単位：人、%）

	合計	医療機関				接骨院等 ・その他	
		救急告示		救急告示以外		人数	構成比
		人数	構成比	人数	構成比		
平成28年	64,375	61,043	94.8	3,326	5.2	6	0.0
平成29年	65,772	62,993	95.8	2,775	4.2	4	0.0
平成30年	69,504	67,090	96.5	2,410	3.5	4	0.0
令和元年	71,228	68,951	96.8	2,276	3.2	1	0.0
令和2年	63,975	62,131	97.1	1,837	2.9	7	0.0

収容所要時間別搬送人員

（単位：人、%）

	合計	10分未満	10～19分	20～29分	30～59分	60～119分	120分以上
平成28年	64,375	6	1,021	11,863	42,862	8,093	530
平成29年	65,772	8	1,106	13,015	44,118	7,112	413
平成30年	69,504	4	1,301	14,560	46,694	6,602	343
令和元年	71,228	5	1,363	15,618	47,698	6,237	307
令和2年	63,975	3	1,280	13,328	42,909	6,135	320
構成比	100.0	0.0	2.0	20.8	67.1	9.6	0.5

（5）転送の回数と理由

令和2年中（1月～12月）に医療機関へ搬送した患者のうち、転送を余儀なくされたものは200人、前年は225人で、そのうち2回以上されたものは、3人（前年3人）であった。

転送の理由は、処置困難が126件（62.1%）で最も多く、次いで専門外が40件（19.7%）となっている。

転送回数別患者数と転送の理由別件数

(単位：人、件)

	転送回数別患者数				転送の理由別件数						
	計	1回	2回	3回以上	計	ベッド満床	専門外	医師不在	手術中	処置困難	その他
平成27年	390	386	3	1	389	24	103	1	3	200	58
平成28年	327	325	2	0	328	16	102	1	0	163	46
平成29年	283	283	0	0	282	9	54	1	0	175	43
平成30年	250	248	2	0	251	7	49	1	0	143	51
令和元年	225	222	3	0	222	13	44	2	0	125	38
令和2年	200	197	3	0	203	6	40	0	1	126	30

(6) 救急隊員の行った応急処置

令和2年中(1月～12月)の搬送人員のうち、救急隊員が何らかの応急処置を行った救急患者は63,937人(搬送人員の99.9%)で、その内容は、血中酸素飽和度の測定が99.0%で最も多く、次いで心電図、酸素吸入、被覆となっている。

救急隊員の行った応急処置

(単位：件、%)

	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	構成比
止血	1,468	1,370	1,362	1,373	1,314	0.6
固定	3,788	3,586	3,227	2,861	2,526	1.1
人工呼吸	415	376	261	234	198	0.1
心マッサージ	50	42	49	48	24	0.0
心肺蘇生	1,255	1,274	1,285	1,295	1,271	0.6
酸素吸入	11,639	11,991	12,005	11,939	10,446	4.8
気道確保	2,288	2,321	2,120	2,016	1,816	0.8
保温	7,287	7,590	7,217	5,834	4,073	1.9
被覆	5,068	4,958	4,901	4,700	4,370	2.0
除細動	161	158	169	132	156	0.1
静脈路確保(輸液)	674	739	880	857	775	0.4
心電図	25,645	26,523	28,014	28,694	26,184	11.9
血中酸素飽和度の測定	63,345	64,648	68,507	70,306	63,279	28.8
その他	98,467	227,560	239,137	113,797	103,332	47.0
合計	221,550	227,560	239,137	244,086	219,764	100.0

(7) 高速自動車国道における救急業務

西名阪自動車国道における救急業務の実施状況(令和2年中)

(単位：件、人)

実施団体	担当区域	出場件数	搬送人員
奈良県広域消防組合	天理インター～柏原インター(上り)	38	35
	香芝インター～天理インター(下り)		